

日本航空の不当解雇撤回をめざす

国民支援共闘会議 御中

JAL 不当解雇撤回裁判原告団

御中

メッセージ

JAL 不当解雇撤回 高裁勝利！早期解決をめざす 10.25大集会に結集された当事者、支援、共闘の皆さん、日々連日の奮闘に、敬意を申し上げます。

私たちの住む北海道では今、JR北海道の事故、車両故障、不祥事などが連日紙面をにぎわせています。

戦争復員労働者の年金や政治家の権力誇示としての新幹線建設、ローカル線新設など時の政権や政治施策による「累積赤字」の責任を労働者に押し付けるかたちで、26年前、国鉄分割民営化によって、国民財産を資本家に売り渡し、儲け優先の民間会社「JR」が誕生しました。

その際、本来の目的であった「闘う労働組合つばし」を遂行するため、安全第一を求める「まともな労働者」「ベテラン労働者」を職場から排除し、儲けのためには「もの言わぬ労働者」作りが進められ、現在のJRが存在しています。

こうした中で、駅舎の立替や新築で見せ掛けのサービスは良くなっていますが（と言っても、お金を出しているのはほとんどが国や自治体ですが）、本来お金をかけるべき安全対策は、車両や線路の検査周期の延伸や修繕作業の外部業者への丸投げなどで、要員と経費を必要以上に削減しています。

結果として、要員不足で手が回らない実態から、補修箇所が放置されたり、手抜きが行われたりしています。さらに、過密タイヤに実労働時間の延長などで、肉体的にも精神的にも極限状態で働かされ、単純な勘違いや見逃しといった、ヒューマンエラーが続出しています。

JALの不当解雇も赤字を理由に、安全運行に欠かすことの出来ない「安全にこだわる」経験豊富な乗務員を狙いうちにした不当解雇であり、国鉄分割民営化に通じるものが多くあると思います。

JRもJALも小さなミスが、人命にかかわる大惨事に繋がるだけに、人命軽視、安全無視の経営施策は認められません。

もちろん、人権無視の差別、不当解雇は、首きり自由を助長させ、生活権や生存権をも奪うものであり、決して許すことは出来ません。

私たちJAL闘争を支える音威子府の会は、道北の閑村、人口800人の村での小さな組織に過ぎませんが、国鉄闘争で学び、培ってきた運動で、JAL闘争の早期勝利解決に向けて奮闘したいと思います。

最後に、今集会に参加できなかったことをお詫びし、集会が実りあるものになることをご祈念申し上げ、メッセージとします。

2013年10月25日

JAL闘争を支える音威子府の会
代表 小西邦広